

フィールド
レポーターだより!!



2004年度 第2回調査

「野生生物の予知能力調査-1」結果報告

最近、私たちは日常の生活の中でじっくり自然を観察する機会を失っています。昔の人は生活の一部として、自然を眺めていたのではないかと思います。昔の人も私たちと同じように、明日雨が降るのか晴れるのか知りたかったことでしょう。天気予報がなかった時代、身の回りの生物の行動や雲を見て、明日の天気を予想したのだと思います。私自身もアマガエルが一斉に雨が降る直前に鳴きだすのを経験しています。ただ、これは予知能力というより、湿度や微細な雨滴を感じて泣き出しているのではないかと信じています。

今回の調査結果を見ますと、「竹は花が咲くと枯れる」など科学的事実として知られるものから、「ウドンゲの花(クサカゲロウの卵)が咲くと家がつぶれる」など、どう見ても因果関係があるとは思えないものまで含まれていました。もし、クサカゲロウが卵を庭に産み付けたらその家がつぶれるのであれば一大事で、クサカゲロウ用の殺虫剤やクサカゲロウよけスプレーが開発されているはずです。もっとも、ウドンゲの花が咲くような手入れをしていない庭をもつ家はいずれはつぶれるという意味かもしれません。

結果の多くはそれなりに科学的根拠があると思います。雨が降る前にツバメが低く飛ぶのは餌としている小さな昆虫が低く飛ぶため、その虫が低く飛ぶのは湿度などに反応している可能性があります。雨の前に魚がはねるのも水面近くに虫が飛んでいるのではないかと考えられます。

今回いろいろ興味深い現象が報告されています。今後フィールドレポーターの調査としてこのいくつかを検証してみたらどうかと思います。生物の予知能力を検証するためには長い時間と多くの事例を集める必要があります。このような研究は一人の研究者ではなかなかできませんし、即座に成果を求められている現在の大学や研究機関の研究としても適しません。フィールドレポーターだからこそ、新しい画期的な発見があるかもしれません。今後の調査が楽しみです。

フィールドレポーター担当 楠岡 泰

「野生生物の予知能力調査-1」結果報告

2004年は世界的に自然災害の多発した年であり、わが国においても7月18日の福井の台風10号災害に始まり、10月20日の台風23号による宮崎、徳島、香川、兵庫、京都、岐阜と日本縦断の災害をもたらした台風まで、実に7個もの台風が被害をもたらした。

さらに、10月23日に発生した新潟県中越地震あるいは併発した大津波により何十万人もの死傷者が発生した12月26日のスマトラ沖地震などなど。

私たちの身のまわりでは、昔からこのような自然現象に対して、野生生物たちが事前にその発生を予知する能力を身に着けているのではないかと思われるような「ことわざ」や「言い伝え」が数多く残されている。

今のように天気予報もなく、また科学的な十分な知識も持ち合わせていなかった人々が、永年の体験から身に付けた生活の知恵といえよう。

今回の「冬のアンケート型調査」では、『野生生物の予知能力調査-1』と題して、彼らの予知能力について調べる手始めとして、私たちフィールドレポーターの身近で、このような「言い伝え」あるいは「ことわざ」を集めた。

なお、今回の調査では、今津自然観察クラブの皆さんにもご協力を得た。

1. 回答数および調査地点

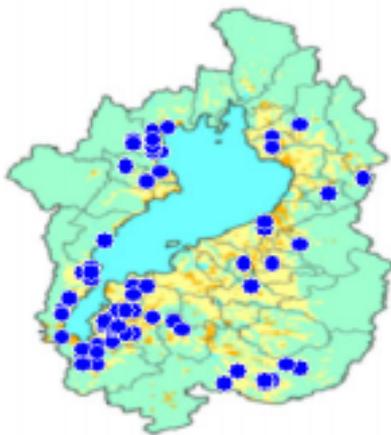


Fig.1 回答者居住地分布

今回の調査では、フィールドレポーター66名、今津自然観察クラブ10名の皆さんから回答を得た。

回答者の居住地点は70地点であり、地形図上にプロットした分布図をFig.1に示す。

今回の調査では、調査に当たったフィールドレポーター自身の経験のみならず、身近な古老あるいは親戚の方々への聞き取り調査をも含まれるので、必ずしも、それぞれの「言い伝え」あるいは「ことわざ」の存在がFig.1の分布図と一致するとは限らない。



2-1. どんないい伝えやことわざがあったか

あらかじめアンケート用紙に例示された「言い伝え」あるいは「ことわざ」8項目について、「聞いたことがある」、「経験したことがある」あるいは「知らない」の3種に分けて回答を求めたところ、Fig.2 に示す結果を得た。

なお、第1項目と第2項目の「地震の前兆としての犬、猫、ねずみの異常行動に関しては、「野生動物と地震」としてまとめた下記7項目について集計を行った。

- 1 地震の前に犬、猫、ねずみなどの異常行動があった。(野生動物と地震)
- 2 大物が釣れた翌日は悪天候となる。(大物釣と悪天候)
- 3 ツバメが高く飛ぶと晴天となる。(ツバメと天候)
- 4 カマキリの卵のうが高い所に作られる年は大雪だ。(カマキリと大雪)
- 5 蜂の巣が高い所に作られる年は台風が多い。(蜂の巣と台風)
- 6 クモが新しい巣を作れば翌日は晴れ。(クモの巣と晴天)
- 7 秋にカメムシが多く家の中に入ってくる年は雪が多い。(カメムシと雪)

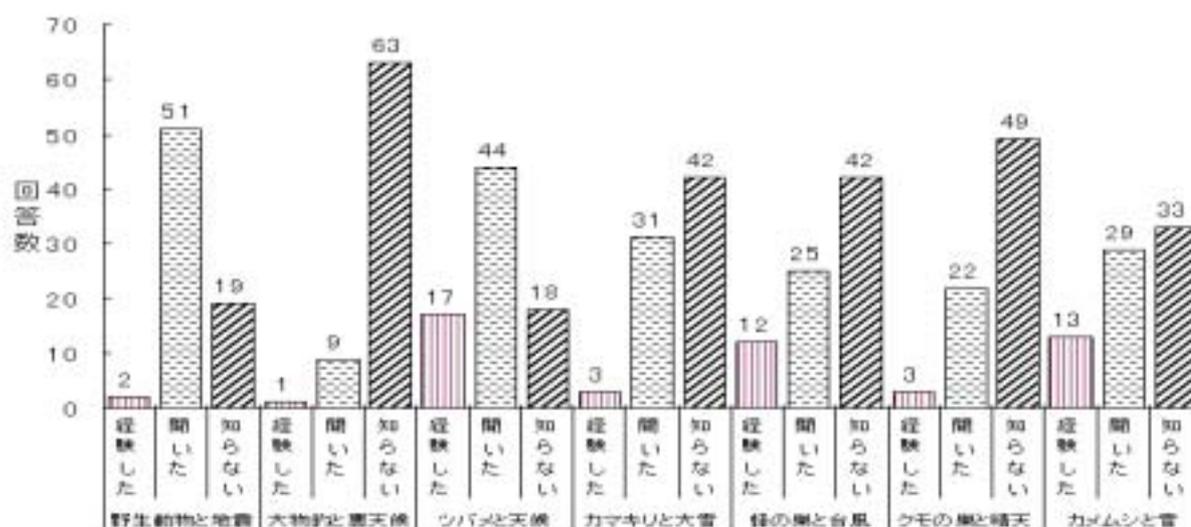


Fig.2 例示「言い伝え」に対する回答内容

「野生動物の異常行動と地震」に関して、「聞いたことがある」との回答数が多いことは、この調査開始直前の12月26日に発生したスマトラ沖地震に関連して、ゾウをはじめとした多くの野生動物の行動について、テレビ、新聞などで大々的に報道されたこととも関連があると考えられる。しかし、「経験した」との回答は、1件だけで、大きな地震発生ほとんどない滋賀県の特徴かも知れない。

また、ツバメの飛翔行動と天候、蜂の営巣行動と台風、カメムシの集合行動と積雪量の関係について、比較的多くの人を経験されており、滋賀県が自然豊かな田園地帯であることの証ではないだろうか。

「大物釣と悪天候」については、90%近くの人が「知らない」と回答しており、今回の調査に参加された方達には釣りマニアは少なかったのか？

2-2. その他の「言い伝え」や「ことわざ」

あらかじめアンケート用紙に記載された以外の、聞いた事がある「言い伝え」あるいは「経験した」と回答された事例を類型別に表 - 1 に示す。

表 - 1 . その他の「言い伝え」や「ことわざ」

経験した	ぶと(小さい虫)が沢山集まって飛んでると雨が降る 浮塵子が低く飛ぶと雨 羽虫(ユスリカ、ウンカ)が低いところに固まって飛んでいると雨になる 羽虫が低いところにかたまっていると天気が悪くなる
	トンビが輪を描いて上昇すると天気がくずれる トンビが群がると翌日は悪天候 トンビが円を描いて飛ぶとはれる
	蛇が軒下に来ると大雨が降る 木の上に沢山の蛇がのぼっていると大雨
	サルが畑に出てきたら、雨(雪)が降る サルが里に沢山出てくると悪天候
	あまがえるが鳴くと雨 蛙が泣くと雨になる
	稲こうじが出ると豊作 麦豊作は、米も豊作 大雪の年は豊作だと言われる
	アリが行列をして移動する時は大雨が近い
	聞いたことがある
柚の実が中になると雪が多い ユヅの実が内部に着果すると雪が多い 柚の実が内側に実る年は雪が多い	

聞 い た こ と が あ る	モズのハヤニエが高いところに刺してあると雪が多い モズが「はやにえ」を高い小枝に刺すと、その冬は雪が多い モズが「はやにえ」がたくさんあると、あるいは高い小枝にあると、寒さが厳しい
	朝クモを見ると吉、夜のクモは「親に似ていても殺せ」 朝蜘蛛は縁起がよいが、夜の蜘蛛は「おとといおいで」と言って家の外に追い出す クモは漁師さんにとって、豊漁を予見
	カラスが家の上空を回りながら鳴くと、そのいえに不幸な事がおこる。 カラスが騒がしく啼くと不吉なことがおきる カラスが集まって、はげしく鳴くと、人が死ぬ カラスが鳴くと人が死ぬ
	火事のある家は2～3日前よりネズミが居なくなる 火事の前にネズミが居なくなった
	雪虫が飛び始めると初雪が近い ゆきんぼが飛ぶと雪が近い 雪ムシが飛ぶと数日後に初雪が降る ユキムシが秋早くから飛ぶ年の冬は雪が早い 小さい虫がよく飛ぶと雨になる
	子供がほたえる(騒ぐ)と翌日は雨となる 子供のちぢれ毛が伸びているように見えると雨になる
	蛇が柿木へ登ると雨が降る
	蟻が行列を作ると雨が降る
	ヒバリが高く飛ぶと晴れる
	鳥が高いところに巣を作ると大雪となる
	山で猿が騒ぐと明日は雨になる
	野うさぎを昼間見ると天気が崩れる
	キジが餌を食い漁ると明日は雪降りになる
	赤とんぼが多いと早が続く
	ごまの草丈が高い年は雪が多い
	秋にサクラの狂い咲きがおおいと、翌年は豊作
	川や池の水面で魚がよく跳ねたら雨が降る
	ウドンゲが咲くと家がつぶれる
	ゼニゴケがはびこると、家が傾
	竹に花が咲くとその竹は枯れる
番 外 編	月が笠をかぶると天気は下り坂または明日雨が降る 夕焼けは晴れ 夕焼けが不気味に赤いと災害が起こる 寺の鐘の音が聞こえるときは、明日は雨天だった 電車の音が聞こえると、天気がくずれる

3. 「言い伝え、ことわざ」項目別分布

2-1に示した、7項目の「言い伝え、ことわざ」について、項目別に「経験した」および「聞いた」と回答した回答者の居住地点を滋賀県地形図上にプロットした図を Fig.3-1～-7に示す。

いずれの「言い伝え、ことわざ」も滋賀県内での分布の偏りは認められない。

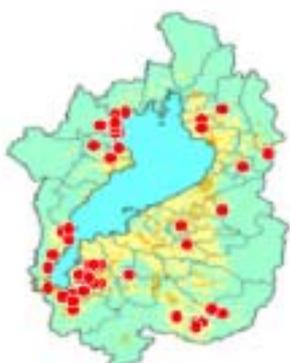


Fig 3-1 野生動物と地震

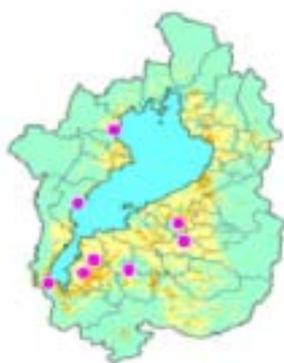


Fig 3-2 釣果と天候



Fig 3-3 ツツハシと天候



Fig 3-4 カマキリ卵のうと積雪量

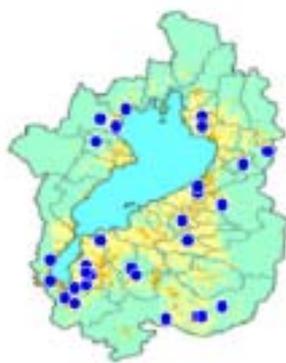


Fig 3-5 蜂の巣の高さと台風

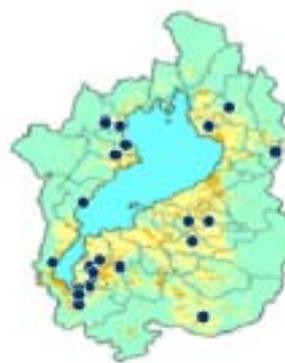


Fig 3-6 くもの巣と天候

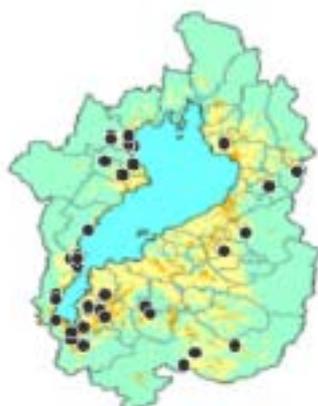


Fig 3-7 カメムシと積雪量



4. 世代別回答者数

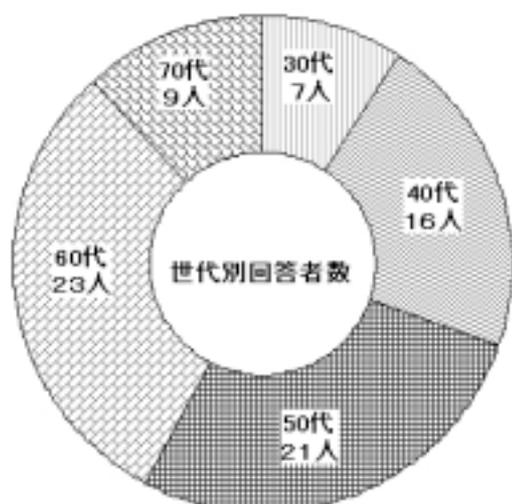


Fig4-1 世代別回答者数

アンケートに回答された76名について、世代別に分類した、その数をFig. 4-1に示す。

次に、それぞれの年代について一人当たり何項目の「言い伝え」、「ことわざ」を「経験した」か、あるいは「聞いたことがある」を算出した結果をFig. 4-2に示す。

人は、一般的に年齢が高くなるに連れて、人生経験も豊かになり、いろんな事柄に対して、見たり、聞いたりあるいは経験したりすることも多くなると考えられる。

今回の結果(Fig. 4-2)、特に「経験した」項目について、30代40代、50代と年を重ねるごとに、経験数も増えており、理にかなった結果と考えられるが、60代、70代で減少しているのはどのように解釈すべきか、疑問が残る結果となった。

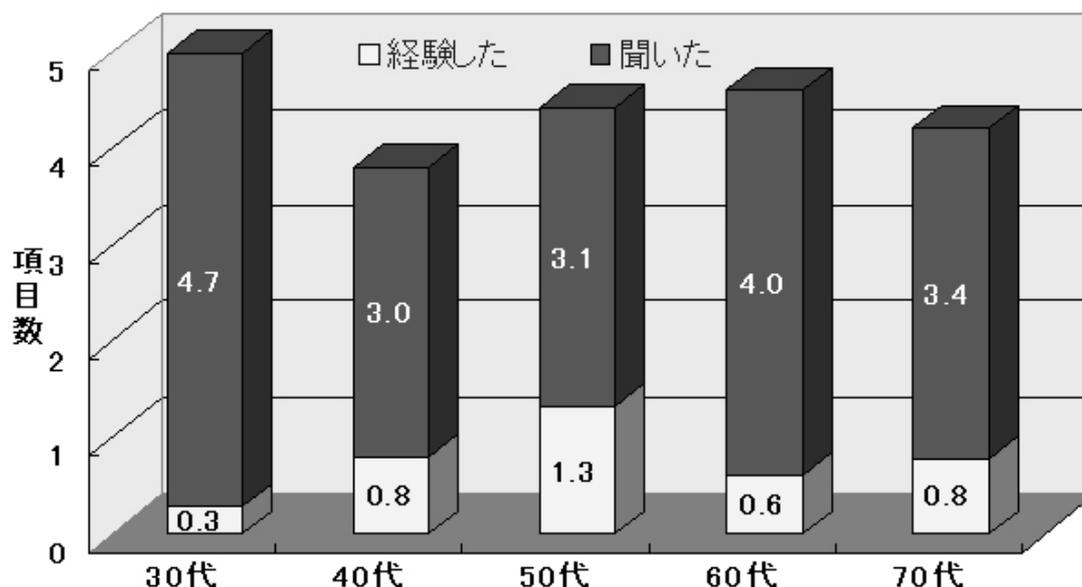


Fig.4-2 一人当たり経験数

5. 自由意見・感想

アンケートに寄せられた、自由意見・感想を表-2に個人別に示す。

表-2. 自由意見・感想

A	<p>霜折れの日より次の日は雨気だった 伊吹山3度目の冠雪は里まで降りる 夜爪を切ると親の死に目に会えない</p>
B	<p>今年は夏、猛暑だったのですが、となりのおばあちゃんが「今年はカメ虫が多いから大雪よ」と言っていた。なかなか寒くならなくて、そうかなあと感じていました。でも正月は雪の中。これから、どうなるか見たいものです。</p>
C	<p>野生生物の生知能力と思いました。 人間にもある能力のはず？ 人間のことにしても知りたく思います</p>
D	<p>阪神大震災のとき猫の異常行動は無かった かめむしがただ単におおいときは？ 確か昭和29年の信楽(多良尾)水害のときに、その前日に山で仕事をしていた祖父が、木の上に沢山の蛇がのぼっているのを見て、不思議に思ったと言うのを聞いたことがある</p>
E	<p>みずまさ(うろこ雲)が出ると翌日は雨になる あさやけは雨になる 明王禿(赤坂山)に雨雲がかかると雨になる 伊黒の夕立は降りそで降らん 「雪荒れ7日」という諺がある 「雪とおばさん温とてござる」という諺がる</p>
F	<p>「がっしん湖^{うみ}から」といいます。不作、不漁は湖の漁から始まる 大雪の年は豊作となる 饗庭野演習の大砲の音がよく聞こえると雨になる 月に傘がかかると雨になる、夕焼けは明日は晴れる 異常に暑い日があったりすると地震がきそうと老人は言う 冬雷が鳴ると「雪起こし」と言って雪が降る</p>
G	<p>動物は天気に対して敏感で崩れる前に異常行動をとる 動物は一般に雨をイヤがる 雨が降ると自慢の臭覚が効かなくなる 雨で体臭が洗われことを嫌う etc</p> <p style="text-align: right;">「山の民俗学」より</p>
H	<p>昨年家の高堀(南側)の低い所に八チの巣が作られているのを気づかずにいたので、二度刺され、そばをとおると威嚇されました。必ず後ろから威嚇されるので、どこから来るのかわからなかったのですが、毎夕のことなので注意して見ると巣が見つかりました。</p>

I	雪の多い地方でもないし、長老が近くにいるわけでもないので情報に乏しい私です。テレビで酒井與喜夫氏のことを雪のテーマのとき放映していた。木の音で雪の量を推測するまで追及されたのには、その科学探究心に驚かされた。 どうして感知するのか、そのメカニズム 何に変化が感じられるのだろうか。多くは大自然に囲まれた中に居住して始めて感じられることでしょう。
J	集落の住民として住んでいる地域の事柄には関心を持っているほうだと思うが、この生物の予知能力に関する「ことわざ」「言い伝え」は聞いていない、周りの人たちからも聞いたという返事はなかった。
K	モズノハヤニエ 昨年末掃除をしている時藤の木にモズのハヤニエを見つけた。 体長(頭～足のゆび先まで)3.5cmのアマガエルが地上148cmの所に口から足の付け根までぐさりと刺されている。 いつになったら食するのか。 現在もそのまま残っている
L	2004年は世界、日本で自然災害が多くて、これから先、地球はどうなっていくのだろうかという不安にかられます。この美しい地球をいつまでも美しいまま残していきたいと思います。
M	いろいろな人に話を聞いたところ、農家など自然と長くかかわって暮らしてきた年配者など、このような言い伝えはよく知っておられるようだ。 また、動物だけでなく、「柚が豊作の年は雪が多い」など植物にかかわる言い伝えも多く見られる。 また植物や気象なども調査される機会があれば楽しいかも知れません。

6. 博物館学芸員のコメント

皆さんから寄せられた「言い伝え」や「ことわざ」あるいは自由意見に関して、琵琶湖博物館学芸員の方々に、それぞれ専門的な立場からのコメントをお願いした。

A. 植物に関連した「言い伝え」について……布谷さん

植物の場合には、何と何との間に相関するような関係があるのかが分かりにくいので、目に見えることと、後に起こる現象との間の関係は見た目にはわかりにくいものです。

ユズが中にできるということは、枝先の花が傷められて、その当年枝の元の花が実になったということでしょう。枝先の花が痛む理由は風や寒さなどが考えられますが、花が影響を受けるのはおそらくは夏前だろうと思うので、その時期の気候などと冬の気候にどう関係があるのかは、植物としては分かりがたいところです。

サクラの例も同じですが、自然状態での狂い咲きは、たいていは台風の影響と思われるので、翌年の気候との関係にはちょっと苦しいですね。確率的に大きな台風が来た翌年は、台風は来ないとか。

その点、具体的なことが分かるのは、間が空いた気候ではなく、直接の影響や指標になる植物の場合です。

ゼニゴケは湿った場所に生える植物ですから、ゼニゴケがはびこるような場所はきちんと家の管理をして風通しを良くしてやらないと、家が湿気で傷み、ほっておくと腐ってしまうとか。

タケの場合には、多くの植物が生長して生長が止まると花を咲かせ、実をつけて枯れるのと同じように、60年近い時間をかけて、成長し、花を咲かせると、枯れてしまうものです。めったに起こらないことなので、目立ちますがひとつの植物の種としての性質です。

魚は私は知らないけれども、雨が近づくと虫が低く飛ぶようになるといいますから、その虫を食べようとしているのではないのでしょうか。ツバメが低く飛ぶと雨というのも同じですね。

B. 虫にかかわる「言い伝え」について……八尋さん

朝グモ夜グモについて

クモ研究者の八木沼さんが「朝グモはよいが夜グモは悪い」と言われるが、果たしてどの地方も同じように言っているのか全国のクモ学者を通じて調べてもらったことがあるそうです。その結果、地域によっては「縁起のよい動物だから殺すな」というのやら、「朝グモは悪いが夜グモはよい」と反対の地方も出てきたそうです。しかし「夜も朝も悪い」とする地方はなく、必ずしも悪に徹していないことがわかりました。

日本書紀にある衣通郎女の「わがせこがくべきよひなりささがにのくものおこなひこよひしるしも」というのは吉報の前兆です。これに通じるのでは「夜グモがあらわれれば客が来る」とか「夜グモがあれば女に逢う」などがあります。そのほか九州のある地方では「夜のクモはヨロコブ(九州でクモのことをコブという)に通じるから殺してはいけない」や、「朝グモ夜ムカデ親の命日でも殺せ、夜グモ喜べ」なども夜のクモが歓迎されています。

「クモは神の使いだから殺すな」とか、「クモはむかし楠の葉をまいて脚を舐擽にして海を渡った。これを見た人間が舟というものを思いついたのだから殺してはいけない。クモは舟の神様である」としてクモサマとして尊び、舟乗りはクモを殺さない地方もあるそうです。これなどは朝も夜もクモを大切にす例です。

しかし、最も多いのはやはり朝グモは縁起よしとし、夜グモは嫌われがちです。「朝のクモは神の使いだから殺してはいけない」「朝にクモがあらわれると、その日によい事がある。来客の前ぶれである」「夜のクモは親に似ても殺せ、朝のクモは仇に似ても逃がせ」「夜グモはどろぼうの入る前ぶれ」「夜クモがあらわれると夜クモ来た(よくも来た)な、として忌み嫌う」などがあるそうです。

理由はそれぞれまちまちで、夜クモが出て来て人をおそったという伝説にもとづいたものや、単に語呂から来たのや、益虫だから殺すなという現代版まであるそうです。結局のところ、クモは徹底的に悪者にはされていないで、どこか吉か善の一面がうかがわれます。

参考文献 : 八木沼建夫, 1984. クモの話 - よみもの動物記 - . 北隆館

参考図書 : 昆虫のことわざに関して

細田剛編集 天気がわかることわざ事典—富士山を中心として—

自由国民社

C. 魚類・両生類等に関連する「言い伝え」について……秋山さん

『ぶと(小さい虫)が沢山集まって飛んでると雨が降る』

蚊柱のことではないか。昆虫の群が、気圧や湿度など天候により地表や水面に近づいたり、離れて群がったりする現象がある。

『朝クモを見ると吉、夜のクモは「親に似ていても殺せ」』

私の生家では、夜の蜘蛛は殺すなど言っていた。

『雪虫が飛び始めると初雪が近い』

雪虫はアリマキの仲間のことではないか。越冬前に飛翔するが、生活史が解明されている筈なので、昆虫専門の方に尋ねると良い。

『赤とんぼが多いと旱天が続く』

秋は、晴天が多く晴れた時の飛翔が多いと思う。が、台風の時はどうなのか知らない。

『ウドンゲが咲くと家がつぶれる』

柱が腐っているのではないか。

『カラスが家の上空を回りながら鳴くと、そのいえに不幸な事がおこる。』

死肉をあさるので、死臭がしているのではないか？

『鳥が高いところに巣を作ると大雪となる』

アシナガバチの巣作りで同様なことが言われている。ハチの場合は、大雨や台風。

『あまがえるが鳴くと雨』

降り始めに必ずといえるほど鳴くと思う。気圧変動が湿度を感知しているのではないか。

『猫が顔をなめると次の日は雨』

よく聞く話だが、晴れになるのではなかったか？

『子供のちぢれ毛が伸びているように見えると雨になる』

人間の髪の毛の伸び縮みを利用して湿度計が作られている。白人の金髪がもっとも感度が高くて良いと聞いたことがある。

『川や池の水面で魚がよく跳ねたら雨が降る』

雨が降りそうになると、蚊柱などが水面近くに形成されるので、それを食べるために魚がよくはねる。同様にツバメでもそんなことを言う。

『ゼニゴケがはびこると、家が傾』

湿度が高すぎるのでは？柱が腐りやすいので、コケが生えるような状態ならすぐに朽ちるのではないか。

『月が笠をかぶると天気は下り坂または明日雨が降る』
季節が限定されるように思う。富士山ではよく言う。

『寺の鐘の音が聞こえるときは、明日は雨天だった』
湿度が高いと音の伝達距離が伸び、速度も上がると思う。

D. 気象に関連する「言い伝え」について……戸田さん

天気予報に関するものが多数あるようですね。

中には極めて合理的なものも多数含まれていると思うのですが、特定の季節や地域でしか成立しないと考えられるものや、元々はマトモだったのが言い伝わっているうちに変になってしまった可能性が高いものもあり、1つ1つを細かく検討してみないと何とも言えないと思います。

ちなみに、生き物が行動する「高さ」に関するものは湿度や上昇気流に関係している可能性が高いですし、音の聞こえ方(鐘や電車の音、子供の声)に関するものは大気の成層状態に関係している可能性が高いと考えられます。

手元に「観天望気のウソ・ホント どこまであたる？お天気ことわざ」(飯田睦治郎著:講談社ブルーバックス B760)ISBN4-06-132760-7 という本があります。残念ながら在庫切れになっているようですが、興味のある方は図書館などで探されてみては如何でしょうか？

E. 鳥に関連する「言い伝え」について……亀田さん

生き物と自然現象に関わる言い伝えは、いろいろありますね。

へえー、こんなものもあるんだ、と知らなかったものもたくさんあります。

それから、「これは、生物の特徴からいってあり得るかもしれない」というものもあれば、「ほんとかなあ」というものもあります。

もし興味を持たれた方がいたら、何か一つ、実際に記録してみてもはどうでしょうか？
たとえば、毎年冬のある時期に、決まった場所でカメムシの越冬個体がいるかどうかを調べて、その年の冬の平均気温や最低気温と比較してみるとか？ もしかしたら、今までちゃんとわかっていなかったことを、みんなで証明できるかもしれません。

ちなみに、「ツバメが低く飛ぶと雨」という言い伝えは、おそらく「虫が低く飛ぶと 雨」という言い伝えとつながっているのではないかと思います。ツバメは飛ぶ虫を捕まえて食べるので、虫が低く飛ぶ時にはツバメも低く飛ぶ、ということです。

モズのはやにえの高さと雪との関係は、モズが餌として貯蔵しているつもりならわかる気がしますが、実ははやにえにはどんな意味があるのかあまりよくわかっていないので、なかなか難しいところですね。

鳥にまつわることわざや言い伝えに関しては、国松俊英著「鳥のことわざうそほん」と(山と溪谷社)という本があるそうです。興味のある方は、本屋さんか図書館で探してみてもいいかがでしょうか。

なにか皆が興味を持ったことがあったら、今度は実際に調べてみてはどうでしょうか？一年に一回だけ簡単に記録すればデータになるようなものなら、その時期に声をかけて一斉にやってみるのもいいかもしれません。(ただし、簡単に記録するだけで、なにか結果が出てきそうなものがよいと思いますが)

人博の三橋君が、「一年に一回だけ、決まった日の決まった時間にある川の同じ場所で水温を測る」というのをやっていました。毎年何地点かで同時にデータを取ると、けっこう面白い結果が出てくるそうです。

目に見える結果が出てくると、レポーターさんも楽しいのではないかなと思います。

レポーターの調査は、「同時多発人海戦術」(?)が売りなので、人手さえあったらできる、面白そうで結果が出そうなネタを、ふってみるのもいいかなと思います。まあ、あくまで一つの方法ではありますが。

6. 謝 辞

今回の調査にご協力頂いた、フィールド・レポーターの皆さんおよび今津自然観察クラブの皆さん、ならびにご多用中にもかかわらず、それぞれの「言い伝え」や「ことわざ」に関して、専門的立場から有益なるコメントを寄せて頂いた琵琶湖博物館学芸員の皆さんに心より、お礼申し上げます。

集計担当:FRS 森 擴之

フィールドレポーター・アンケート型調査案内

『身のまわりの自然』

皆で調べてみませんか



「大地震の前に家のねずみが居なくなった」、「ハチの巣が低い所に作られると、その年は台風が多い」、「カマキリの卵のうが高いところに作られる年は大雪だ」。こんな話を聞いたことはありませんか？

これらは農村、漁村の人々を中心に「ことわざ」あるいは[言い伝え]として、古くから語り継がれてきた事柄であり、今のように天気予報もなく、また科学的な十分な知識も持ち合わせていなかった人々が、永年の体験から身に付けた生活の知恵といえましょう。

しかしながら、このような「言い伝え」については、必ずしも現代の科学知識のもとで証明されたものは、多くはありません。

唯一「カマキリの卵のうの高さと積雪量」について、新潟県に住む(株)酒井無線の社長さんである酒井 與喜夫さんが、20年間におよび緻密な観察と実験の結果、両者の間に高い相関関係の認められることが明らかにされています。*

カマキリ達は、その年に降るであろう雪の量をどのようにして、3~4ヶ月も前に予測しているのでしょうか？ 不思議に思いませんか。

このような野生生物の予知能力について、調べてみたいと思います。



今回の「冬のアンケート型調査」では、『野生生物の予知能力調査-1』と題して、彼らの予知能力を調べる手始めに、皆さんの身近で、このような「言い伝え」あるいは「ことわざ」を集めて頂きたいと思います。

あなたご自身の経験のみならず、ご家族の皆様あるいは近くの古の方々などのお話でも結構です。お正月に皆さんが集まれた時の話題にしていただき、多くの皆さんからのご回答をお願い致します。

このような「言い伝え」あるいは「ことわざ」を今までに聞いたことも、経験したこともない方も、アンケート用紙は、必ずご返送頂きますよう、お願い致します。「無い」と言う情報も貴重な情報となります。

調査期間 平成17年1月から2月末まで

参考文献 * 日経サイエンス 1997年5月号



野生生物の予知能力調査 - 1 アンケート用紙

(アンケート用紙は必ずご返送下さい)

1. 氏名 : _____ ; 年齢 : 20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上

2. 住所 : _____ 市・町・村 _____

3. メッシュコード(8桁:あなたの居住地):

--	--	--	--	--	--	--	--

4. 下の例示項目の該当欄にチェックを記入してください。

	聞いた	経験した	知らない
1. 大地震の前に家のねずみが居なくなった	()	()	()
2. 大地震の前に犬、猫の異常行動があった	()	()	()
3. 大物が釣れた翌日は悪天候となる	()	()	()
4. ツバメが高く飛ぶと晴天となる	()	()	()
5. カマキリの卵のうが高いところに作られる年は大雪だ	()	()	()
6. ハチの巣が低い所に作られると、その年は台風が多い	()	()	()
7. クモが新しい巣を作れば翌日は晴れ	()	()	()
8. 秋にカメムシが多く家の中に入ってくる年は雪が多い	()	()	()

5. 上の例示以外に類似の「ことわざ」、「言い伝え」を聞いたことがあるか、「経験」したことがありますら、その内容を下に記入して下さい。

(該当()内にもチェックして下さい)

1.	()	()	()
2.	()	()	()
3.	()	()	()

6. 聞いたことも経験したこともない方は、右の()内にチェックして下さい。 ()

7. 参考事項(ご自由に意見・感想等ご記入下さい)

(裏面も使って下さい)